

院内感染対策実地支援 アドバイスレポート（別添4）

実施日：平成30年11月29日（木）14：00～17：00

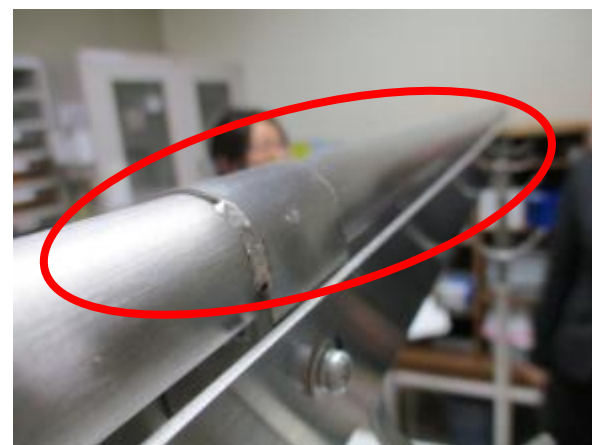
手洗シンク周囲の水滴汚染や不要なものも設置なく、清掃が行き届いていました。



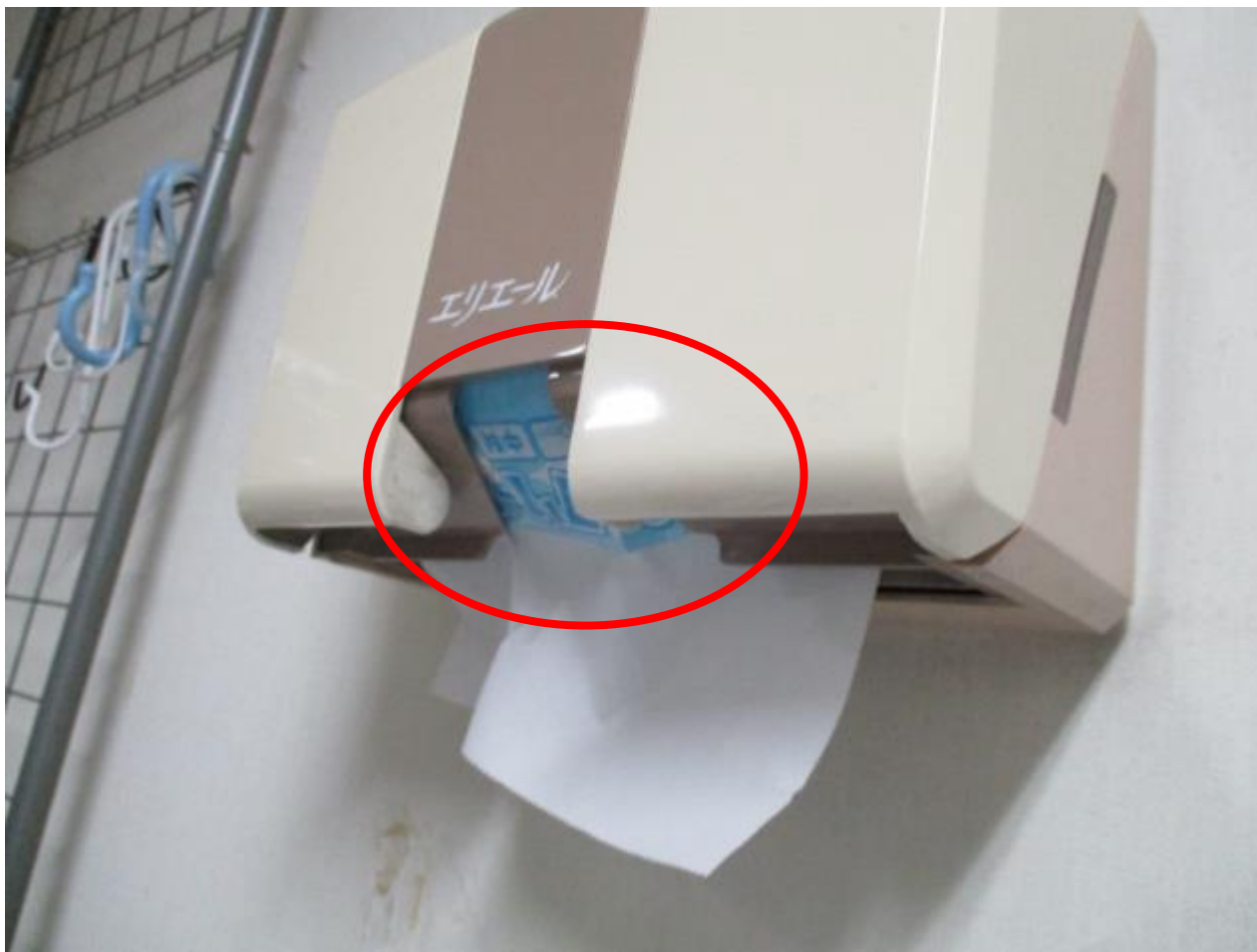
ミキシング台に不要なものがなく清掃が行き届いていました。
しかし、点滴フック台上に埃が貯留していました。ミキシング時に塵や埃が落下する事で注射薬が汚染する可能性があります。
最低1日1回の清掃を行ってください。
ミキシング台がシンクに近く、水跳ねによる汚染が懸念されます。



ドアが常に開いていました。埃や人の出入りによる汚染を防ぐためにミキシング時だけでもドアを閉めてください。



ペーパータオルが外包に包まれたままセットされていました。
ペーパーを取り出す際に外包に触れ、汚染する可能性があります。次の新しいペーパーを取り出す際に汚染された外包に触れて手洗い後の手指が汚染される可能性があります。外包を除いてホルダーにセットしてください。



インシュリン用針等の滅菌物を保管していた紙箱が劣化・汚染しており、衛生的ではありませんでした。紙製は、汚染しやすく清掃が困難なため、プラスチック容器への変更をお勧めします。



医療物品と文房具が同じ容器に保管されていました。文房具、医療物品、患者個人の薬品をそれぞれ分けて保管をし、清潔・不潔の交差を避けるよう工夫されると良いです。



ミキシング台下の引き出し内の仕切りは、プラスチック製できちんと整理されています。

しかし、引き出しの開閉時、滅菌物の外包が擦れていました。外包が破損した場合、滅菌が破たんします。擦れないように収納の工夫と定数の見直しをされると良いでしょう。



滅菌材料を床に近い下段で保管がされていました。扉付きだったので良いかと思われませんが、埃や塵による汚染の可能性が高くなるため、可能な限り上段での保管をお勧めします。



病棟入口に手指消毒剤や手指衛生の手順ポスターの啓発がされていました。
誰がみても実施できる工夫がされていました。



包交車は、清潔物品と不潔になった物品が隣接することでの交差や様々な患者との共有物品が混在する環境です。必要な物だけ個別に持参することが最も清潔な管理方法です。

設置されている物品が多く、清潔・不潔の交差が懸念されます。基本的に台の上は、不要なものを設置せず清掃しやすいようにしておくことが望ましいです。整理整頓し、衛生的に管理できるようご検討ください。



ガーゼ缶は、開閉時に滅菌が破綻するため、パックガーゼを使用することで衛生的かつ上段の物品が整理されるかと思われます。
処置で使用するガーゼ等が紙製箱に大量にセットされていました。スタッフの手作業である折りたたみ作業は、衛生的に使用直前が望ましいです。保管は、清掃しやすいプラスチック容器で塵や埃が掛からない蓋付き容器が望ましいです。ご検討下さい。



蓋の開閉のたびに、中のガーゼが汚染されてしまいます。

予め畳んでおくことで、手の雑菌がここで増えてしまいます。

ごみ箱は、多患者のベッドサイドで共有するものでした。1患者毎に廃棄できるようビニール袋を交換する等患者から患者のベッドサイドへ持ち運ぶことを避けるよう工夫されると良いです。

手袋が引き出しに収納されていましたが、中身が出ていて引き出しに擦れていました。手袋の破損や汚染に繋がるため、保管場所をご検討ください。



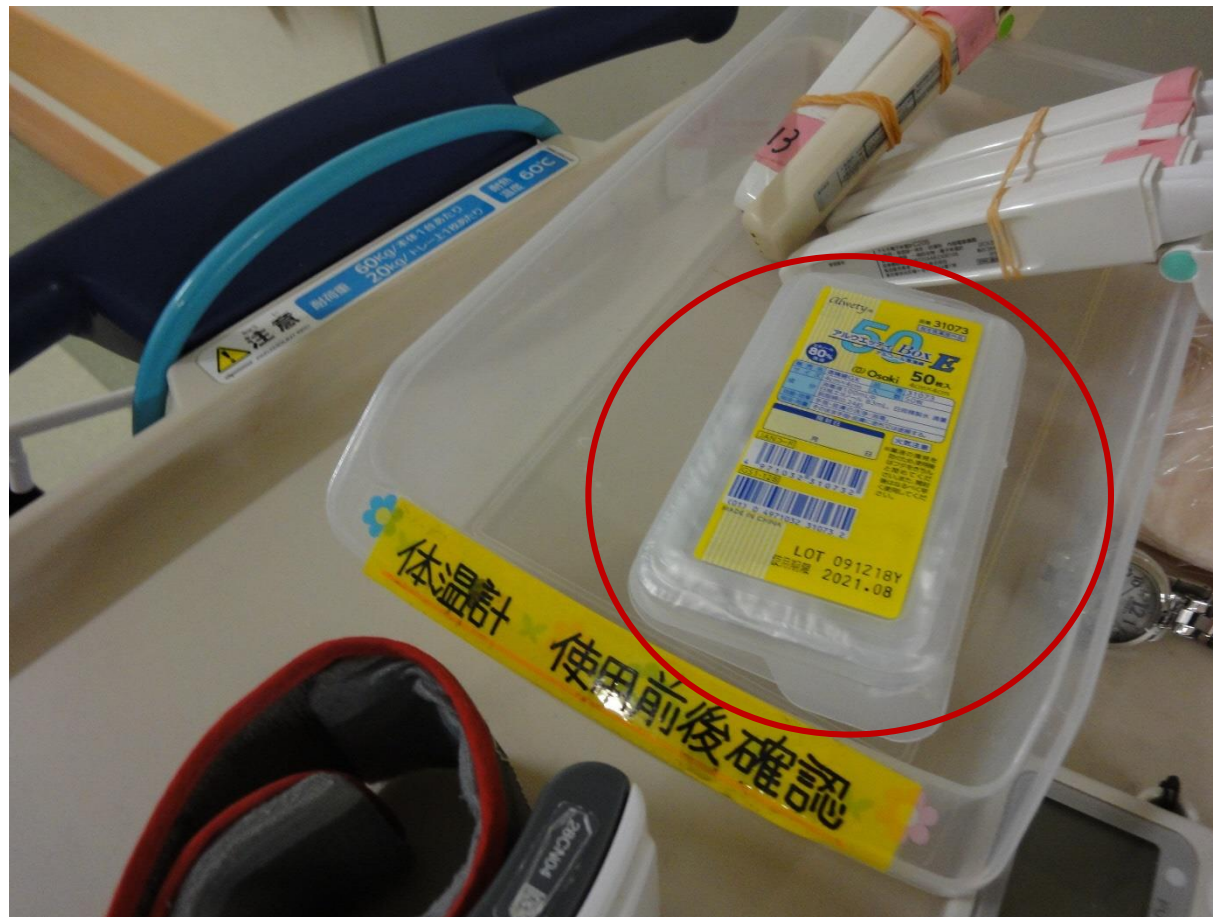
- ・複数の患者のベッドサイドで使用する軟膏類は汚染が交差するリスクが非常に高いです。個人専用にして使用することが望ましいです。
- ・紙製の箱が劣化していました。清掃可能なプラスチック容器をご検討ください。



・軟膏に開封日が記載されていませんでした。使用期限マニュアルを作成し、院内に周知をお願いします。



- ・アルコール綿に、開封日が記載されていませんでした。記載をお願いします。
(使用期限は開封後24時間以内です)
- ・中のアルコールの揮発予防のため、内側の銀紙は開封時に除去し、密封性を高める必要があります。
- ・期限内にアルコール綿を使いきれない場合は、単包型のアルコール綿を導入することにより、結果的にコストが抑えられることもあります。単包型アルコール綿の導入もご検討ください。



保温タオル運搬袋の底に汚染がありました。ビニール袋を使用しているとのことでしたが、衛生的ではありません。汚染毎に更新するか、清掃しやすいプラスチック容器をご検討ください。



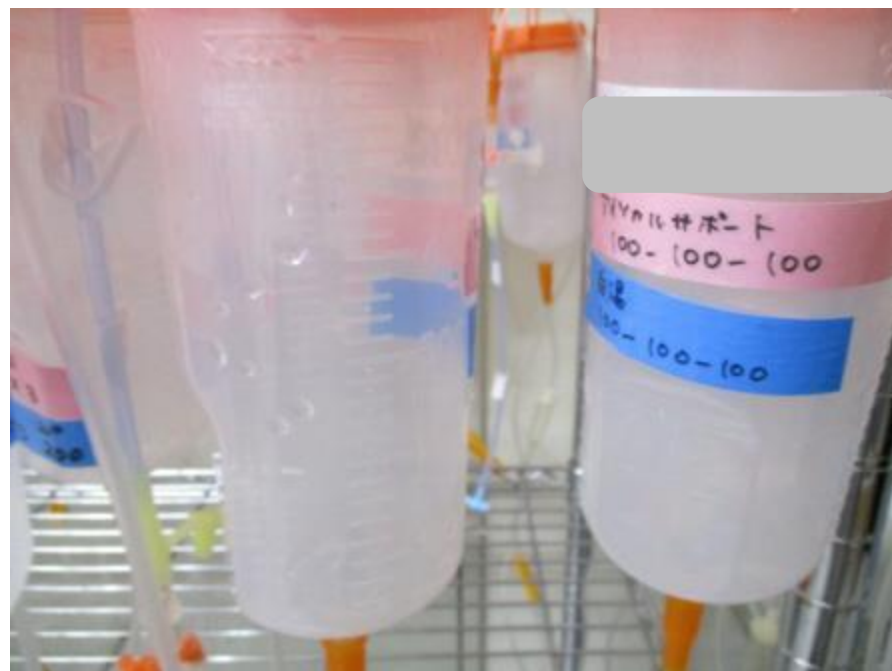
部屋の前にPPEホルダーが設置され、必要時に使用できる体制でした。
しかし、PPEホルダーにペーパータオルが設置されており、取り出し口が上向きでした。
塵や埃により汚染する可能性がありますので専用のホルダーに保管して下さい。
手袋の大きさには個人差がありますので、サイズの違う手袋を設置されると使用できる職員の数も増えますので良いかと思われます。



経管栄養物品の保管が廊下の一角で行われていました。また、保管されていた容器は、十分な乾燥ができておらず水滴が残っていました。

乾燥器等を用いて十分に乾燥する工夫をするか、使用直前まで消毒液に浸漬させておく方法があります。もしくは、パック式や注入式の栄養剤もありますのでご検討ください。

経管ボトルにビニールテープを貼付することで、洗浄が不十分となる可能性があります。また、洗浄時にマジックのインク成分が溶解し、ボトル内部が汚染するリスクもありますので、洗浄の手間のかからないディスプレイ式のパックや、注入式の栄養剤の導入をご検討ください。



病室ドアの入口に手指消毒薬が設置されていましたが、しかし、出入りするスタッフは使用していませんでした。ドアの持ち手側に設置することをお勧めします。



こちら側に設置されると良いでしょう。

ベッドサイドに円座が床に置いてありました。床はあらゆる微生物が付着しているため、汚染リスクが必要に高いです。別の棚や台、その他床ではない場所での保管をご検討ください。



爪切り収納箱の中に耳かきが入っていました。各物品の汚染の交差が懸念されます。現在使用していないとのことですので不要なものは廃棄する等整理されてください。

また、爪切り関連の物品は、構造上、洗浄が十分にできないものや錆が発生しやすいものがあるため複数患者との共有は可能な限り避け、個人専用のものを使用することをお勧めします。



滅菌製剤、文房具、多患者に使用する物品が一つの箱に収納されておりました。汚染の交差のリスクが高いですのでそれぞれ分けて保管することをお勧めします。



汚染されたものが全てワゴン上段に置かれていました。清潔物品は上段、不潔物品は下段というワゴン内のゾーニングが必要です。



濡れたタオルが清拭車の中に電源の入っていない状態でセットされていました。細菌が繁殖するため、可能な限り使用直前にお湯を入れ、セットしてください。



汚物処理室に必要なPPEが揃っており、吐物処理手順書もセットされていました。



薬剤部 1

- ・冷所で保管が必要な薬剤が、家庭用冷蔵庫で保管されていました。
- ・ワクチンなど厳重に温度管理が必要な薬剤もありますので、薬品保冷庫の導入をご検討下さい。



薬剤部 2

・鑑査された内服薬が、段ボールで保管されていました。汚れた時に、清拭できるプラスチック製などのケースでの保管をお願いします。



薬剤部 3

・薬剤が棚上に保管されていました。埃がかかり薬剤が汚染される原因となり、また棚上の清掃も不十分になる可能性があります。

